

拠点整備に向けた 社会実験について（報告）

1

交流拠点整備に向けた社会実験実施結果について

1 実施期間

令和5年7月12日（水）から16日（日）まで 各日 午前10時から午後4時まで

2 実施場所

秦野市農業組合本町支所2階多目的ホール、JAさわやか館及び市有地

3 参加人数

延べ275名

4 協力事業者等

秦野市農業協同組合（会場提供・子育て事業）、秦野ガス（ヨガ講座）、
秦野ノルディック&ポールウォーキングクラブ（脳トレ講座）、学生団体E4（学生の居場所づくり）、
小田急電鉄株式会社（子育て事業）、秦野曾屋高校軽音楽部（演奏）、秦野高校吹奏楽部OB（演奏）
デザイン会社マイクロデベロップメント（ワークショップ）、その他（はだのこども館（子育て事業））



脳トレ



室内遊び場



農協ママメート



農協ママメートとヨガ



吹奏楽の演奏



曾屋高校 軽音部



椅子づくりワークショップ



小田急ワークショップ

2

5 実施の目的及び主な実施結果について

多世代交流の場づくり（屋内）

※ アンケート調査を踏まえた実施結果は現在作成中

目的	実施内容	主な実施結果
県道705号沿道の交流拠点に必要な機能の検証	<p>多様な属性、幅広い世代の来場者に求められる空間を設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの屋内遊び場 ・幼児体操 ・ヨガ教室 ・市民講座 ・ワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の属性によって利用する時間帯が異なる。（未就園児を午前中に遊ばせる場所がない） ・事前調整の際には駐車場が有料であることが課題であったが、実際には鉄道やバスなどの公共交通機関の利用や有料駐車場の利用が多くみられた。（平塚市から参加される方もいた） ・空間を完全に仕切らないことで、普段は関わるが少ない属性の人たちの交流が生まれるきっかけとなった。 農協ママメート×ヨガ講座 軽音部×椅子づくりワークショップ <p>→ 駅前の交流拠点として、地区外の市民も集まるポテンシャルがある。また、拠点の整備に当たっては、利用者の属性に合わせた時間帯ごとの施設の使い方や、図書館など複数の属性の利用が期待できる施設の検討、異なる属性同士の交流を促す空間づくりなどを研究する必要がある。</p>

滞留空間の創出（屋外）

目的	実施内容	主な実施結果
将来的な県道705号沿道の屋外空間の活用策の検証	人工芝やベンチ、テーブル等の設置による、休憩・会話、飲食等のできる空間の創出（土日に音楽演奏）	<ul style="list-style-type: none"> ・開催期間は熱中症の危険性が高まっていたこともあり、屋外での利用は少なかったが、地元の自治会や商店からは普段と異なる空間の使い方に関心を持つ声がかれた。（3日目以降から利用者あり） ・屋内外に関わらず文化活動に関わる学生は発表の場を求めており意欲がある。 ・生演奏が始まると、足を止める歩行者や演奏を聴きにくる近隣住民がいた。 <p>→ 県道705号沿道においては、地域や学生などが目的をもって利用できる空間のニーズがあると考えられる。</p>

3

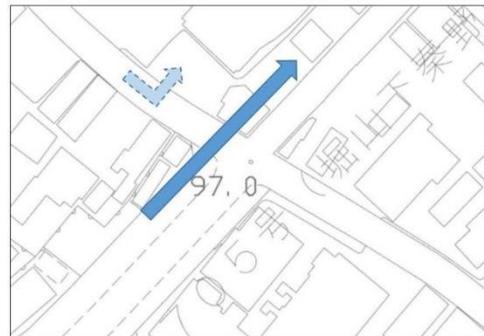
6 人流調査結果について

調査場所

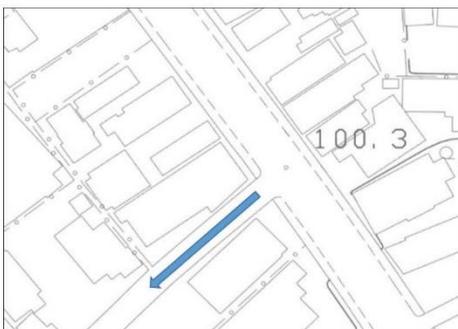
■まほろば大橋～県道705号



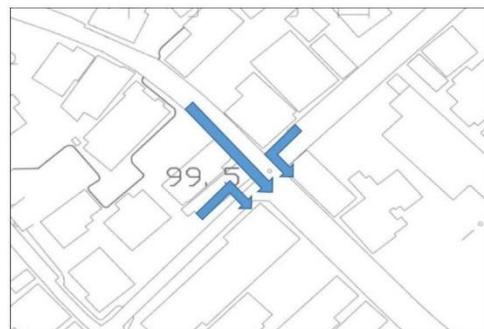
■農協本町支所前



■片町通り～路地沿い（農協裏の通り）



■トミナガ前（路地沿い）



4

6 人流調査結果について

社会実験に伴う人流調査結果(令和5年7月13日(木)、16日(日))

調査目的	拠点を仮設することにより、拠点利用者を含めた周辺の人流の変化や周辺店舗への影響の確認							
7月13日(木)	まほろば大橋	R4	農協前	R4	片町通り	R4	トミナガ前	R4
9:00~10:00	66	63	35	32	26	18	28	9
12:00~13:00	81	77	57	25	38	25	48	14
16:00~17:00	43	48	36	22	27	17	21	14
7月16日(日)	まほろば大橋	R4	農協前	R4	片町通り	R4	トミナガ前	R4
9:00~10:00	53	50	37	19	28	19	32	6
12:00~13:00	42	39	29	27	27	16	31	16
16:00~17:00	62	62	48	21	18	23	37	24

R4:令和4年度の調査結果

社会実験(講座等)が主な要因となり歩行者が増えたと考えられる時間帯

ヒアリング結果

周辺店舗	初めて来る親子連れや講座帰りの人などが来店した。 13日(木):プリーズカフェ(パンケーキ)、ポニー(定食)、ハダパン(鉄板焼き) 16日(日):イタリアンレストラン(トラットリア ダ マサ) (来場者への聞き取りでは、昼食をとる店を事前に調べていたとのこと) 自分の店としても拠点到人が集まるのであれば、ターゲットを絞った呼び込みなど、人々の行動に合わせた仕掛けができると思う。
近隣住民	暑かったが、いままでと違う場所の使い方は楽しい。夏は夕方に広場を使っても良いと思う。 春や秋などには、今回のような屋外で過ごせる場所は気持ちが良いと思う。 親子や高校生が県道沿いで楽しんでいる姿は嬉しく思う。 図書館などの公共施設が駅前にあると、過年で利用者があり、そこを拠点に周辺にもぎわうのではないかな。
参加者	講座や遊び場にに合わせて、周辺の飲食店を調べてから来た。 アンケート調査では、拠点の後に行く場所としては、イオンが一番多かった。 脳トレ講座では、約40名参加のうち約15名が電車やバスを利用した。市外(平塚)の参加者もいた。
運営団体	以前から普段の会場として使用しているカルチャーパークではなく、駅前で講座を開催してほしいという話があった。 駅前で人が集まるのか不安だったが、定員を超える人数が集まってきてよかった。 こども館よりも会場が明るく、こういう場所で定期的に子育て事業ができるの良い。 ポケット21のチラシを見て、本町地区以外の方も来てくれた。拠点としては良いと思った。
その他	周辺店舗では、実際の取組みの様子を見て、社会実験の後半では店舗にチラシを掲出し、ワークショップにも参加する方がいた。 生演奏などで、音楽が鳴っていると往來の人も足を止める方がいた。(気持ちが楽しくなるという意見あり)

5

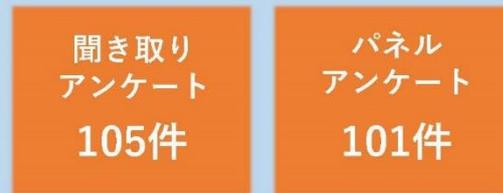
7-1 アンケート調査結果概要

※アンケートについては、属性等の分析やクロス集計も含めた取りまとめを行い、今後の取組みに反映していきます

延べ滞在者数



アンケート回答者数



屋外



屋内



聞き取りアンケート

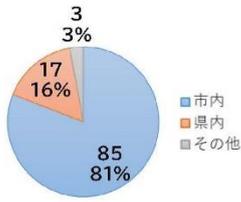


パネルアンケート

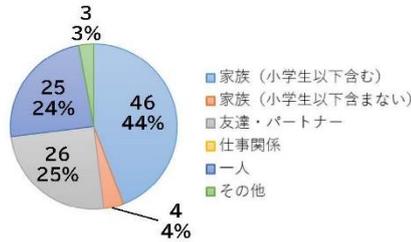
6

7-2 アンケート調査結果概要 (一部抜粋)

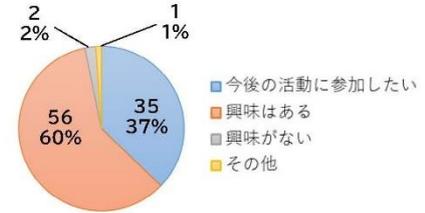
Q1: 居住地



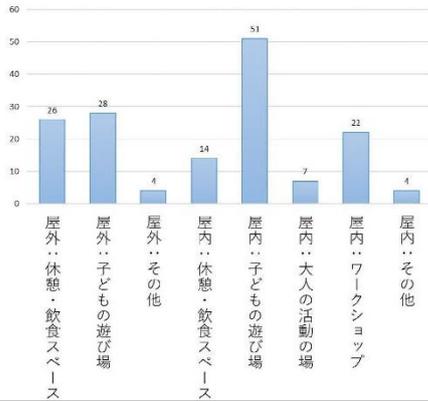
Q2: 誰と来たか



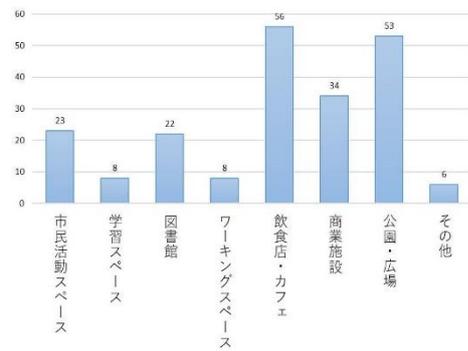
Q3: 社会実験への興味



Q4: 良かったもの・満足したもの

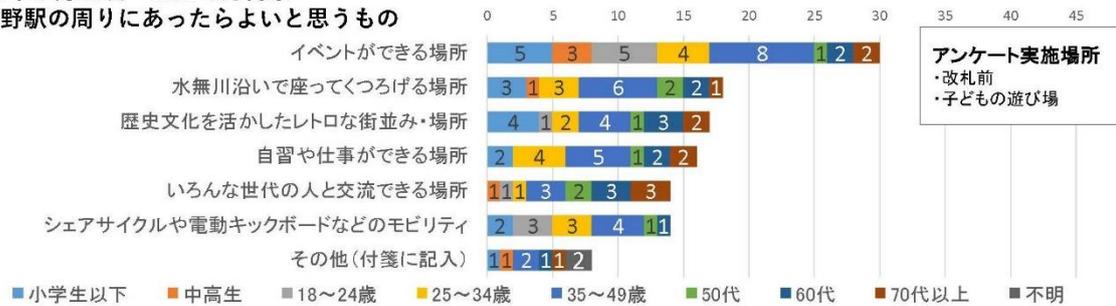


Q5: 秦野駅周辺にあったら行ってみたい施設

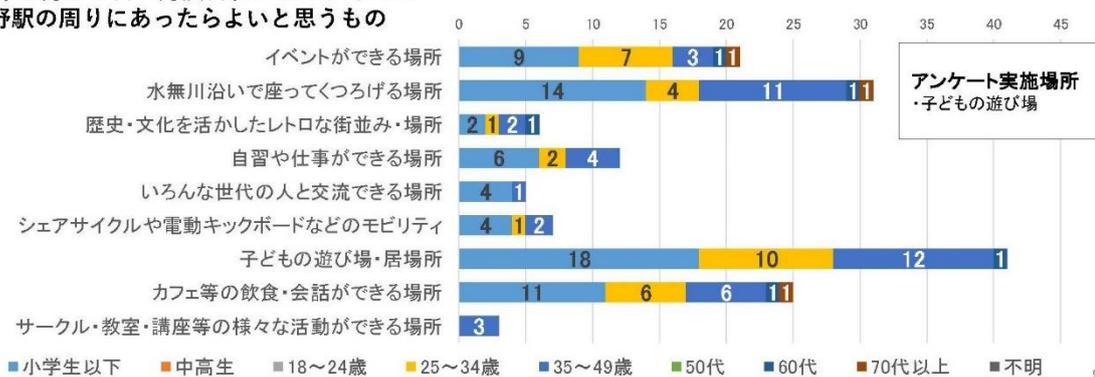


8 その他イベント等のアンケート調査結果概要 (一部抜粋)

R5年3月25日 はだの万博祭
秦野駅の周りにあったらよいと思うもの



R5年8月26日 丹沢日和フェスティバル
秦野駅の周りにあったらよいと思うもの



②水無川沿いの活用に向けた社会実験について

11月18日、19日に実施予定の水無川沿い社会実験において、昨年度の懇話会の結果を踏まえた社会実験の方向性や実施内容、配置図等を示しながら社会実験実施に係る検討事項の説明を行い、各団体で協力・連携できる部分等について情報共有と意見交換を実施した。

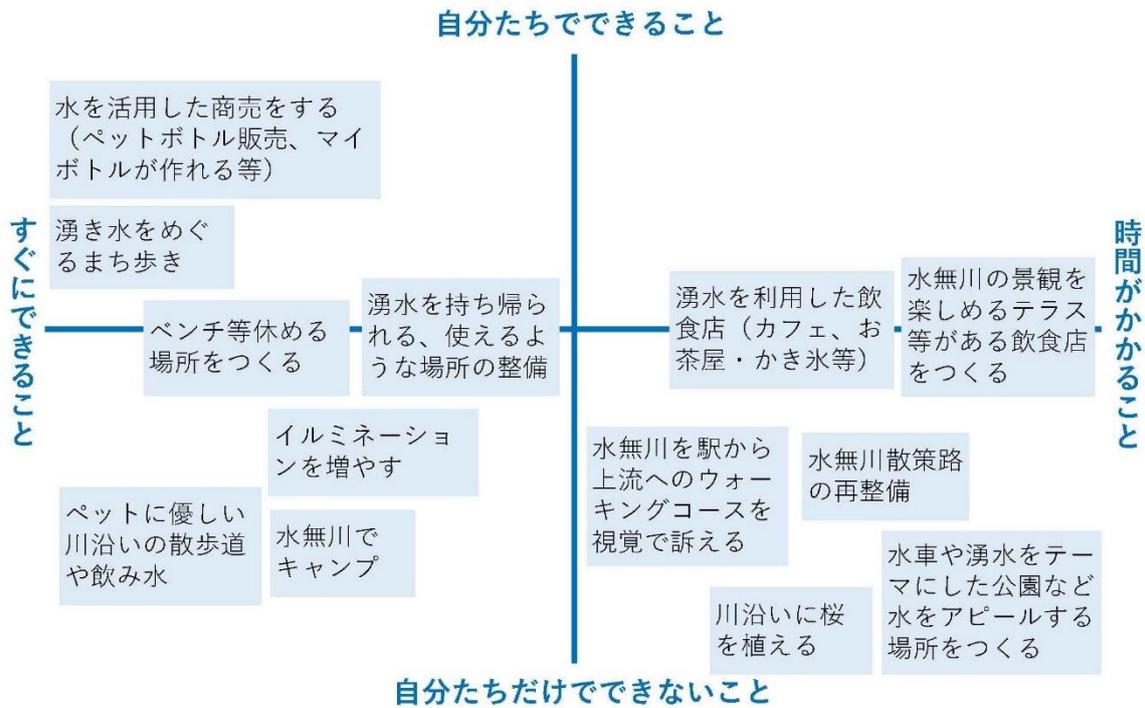
次ページ以降に説明の際に用いた資料を示す。



水無川沿いの活用に向けた 社会実験について

昨年度の懇話会の振り返り（第2回成果）

▶水無川・湧水の活用に関するアイデア



昨年度の懇話会の振り返り（第3回成果）

▶水無川・湧水の活用に関する企画案

【アイデア】	桜 Market !!
【目的】	川沿い・水を活用したにぎわいづくり
【やること】	桜を楽しめるコンテンツ、ドッグラン、アート展示（小学生・アーティスト）、ミニSLを走らせる、水のPRブースを置く、芝生をひく、駅から水を流す（竹筒）、水無川の上にアンブレラ・Tシャツをかける
【ターゲット】	市民（ファミリー層、高齢者）
【実施場所】	水無川沿い
【実施時間帯】	土休日 10時～21時
【準備すること・もの】	道路占用許可
【心配ごと・課題】	河川敷の利用許可（難しければ道路で行う）

3

水無川沿い社会実験の方向性について

▶北口周辺まちづくりビジョン

地区の将来像（目指すべき方向性） — 名水と歴史がつなげる未来 —
しなやかな街なか暮らし

「はだのローカル」を楽しむ発信する

はだの暮らし × 発信する	「はだの」人 × 交流する	水無川の景観 × 楽しむ	公共空間 × 創出	空き地・空き家 × 使う	歴史的建築物 × 活かす
------------------	------------------	-----------------	--------------	-----------------	-----------------

※各ゾーンの目指す方向性

「水無川沿いゾーン」の目指す将来のイメージ

川沿いに人のための空間が生み出され、人々が思い思いに歩き、憩い、水のある居心地の良い空間を楽しんでいる
 水無川の景観 ×楽しむ 公共空間 ×創出 「はだの」人 ×交流する

現在の水無川沿いの道路空間（市道6号線）

市道6号線
水無川を望む空間が狭く、人がアクセスしやすい空間となっていない

市道6号線
川沿いに空間が創出され、活気が生み出される

実現に向けた取組みと取組みのプロセス

まずはやってみる

河川空間と交通環境のあり方の検証
河川空間や市道6号線を活用し、丹沢の山並みや水無川を眺めるゆるやかな歩行空間を創出し、アクティビティの変化や交通への影響等を検証・検証する。

道路改良による人中心の空間づくり
効果検証を経て、周辺の道路ネットワークに影響のない様に歩行環境や交通環境を改良し、川沿いの景観・環境を楽しむことができる人のための空間を生み出す。

将来実現したいこと
緑とまちなかをつなぐ景観が豊かになり、水無川沿いを人が行き交い、楽しそうに歩めることで、沿道の景色が豊かになり、まちなかに誇りが湧く。

- 水無川沿いには、安全安心で快適な歩行空間が確保され、景観を楽しむことができる。
- 水無川や丹沢の山々の景観を見ながら、ゆっくり過したり、会話・飲食が楽しめる。

→以上、ビジョンで掲げられている地区の将来像実現に向け、今回の実証実験を行う。

4

水無川沿い社会実験の方向性について

▶水無川沿いゾーンの社会実験の目的・方針

社会実験の目的

ビジョンの重要なキーワード「**水辺や景観を楽しめる街**」「**人中心の街**」を**実現するために必要な『居場所の在り方』と『環境の在り方』を検証する**

社会実験の実施方針

- ① 水辺（近景）・街並み（中景）・山並み（遠景）を楽しめる視点場・活動点を設定する
- ② それら視点場・活動点の滞在快適性・居心地を良くする「空間」と「コンテンツ」を設定する
- ③ 視点場・活動点を安全安心かつ快適に巡るための回遊環境・アクセス環境を設定する

【実施方針①】

プレイスマネジメントに取り組む
(居心地・居場所の在り方の検証)
場の設えとアクティビティの多様性

【社会実験要素（案）】

- 視点場にふさわしい居場所の設定
- 滞在快適性を高める休憩施設や眺望空間の設え
- 滞在時間を高める相乗的コンテンツ（マルシェやWS・イベントなど）の導入

効果検証／アンケート、滞在時間、アクティビティ数 等

【実施方針②】

アクセスマネジメントに取り組む
(巡りやすさなどの環境の在り方の検証)
歩車分離・歩車共存など人の移動環境の快適性

【社会実験要素（案）】

- 視点場や水辺へのアクセスルートの確保
- アクセスを円滑に促す情報発信（サイン等）
- 自動車・通過交通の流入抑制（通行制限）

効果検証／交通渋滞調査 等

2つのマネジメントを相互に連動させながら社会実験を実施

※各実施方針に基づいた社会実験要素は、検証結果を踏まえ継続的・段階的に内容をアップデートさせ、恒常的な空間・環境につなげます。

水無川沿い社会実験の方向性について

車両優先

歩行者優先

プレイスマネジメント

まほろば大橋の広場や水無川の河川区域内等において、**水のある居心地のいい空間・利活用**を検証

社会実験実施内容

アクセスマネジメント

CASE1

川の往来が可能な場所に臨時通路を設置
(交通誘導員等を配置する)。歩行者の水無川へのアクセス性改善を図り、利用者の反応や交通混雑状況を検証。



CASE2

車線減少を伴う交通規制を行い、利用者の反応や交通混雑状況を検証。



CASE3

公共交通の通行のみを許可したトランジットモール化により、利用者の反応や交通混雑状況を検証。



CASE4

完全に車両の通行を制限し**歩行者天国（フルモール）**とすることにより、利用者の反応や交通混雑状況を検証

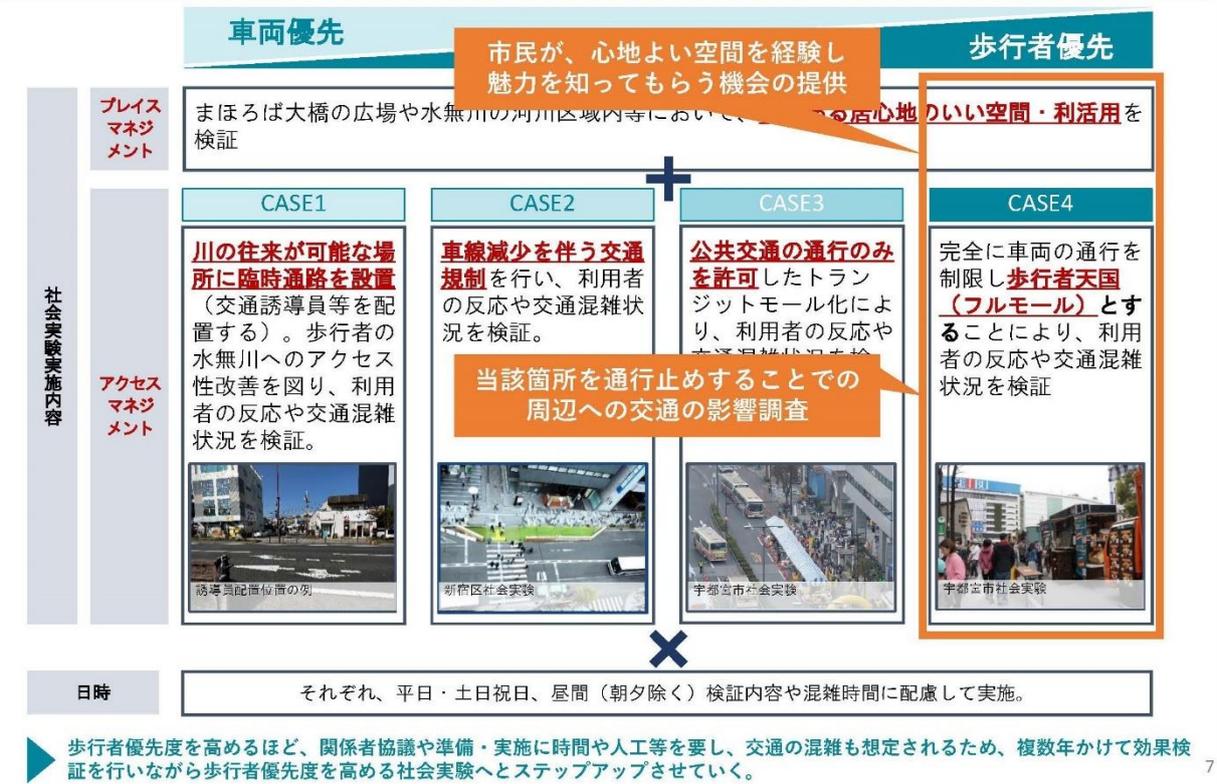


日時

それぞれ、平日・土日祝日、昼間（朝夕除く）検証内容や混雑時間に配慮して実施。

▶歩行者優先度を高めるほど、関係者協議や準備・実施に時間や人工等を要し、交通の混雑も想定されるため、複数年かけて効果検証を行いながら歩行者優先度を高める社会実験へとステップアップさせていく。

水無川沿い社会実験の方向性について



水無川沿い社会実験の方向性について

▶実施概要

目的	ビジョンの重要なキーワード「水辺や景観を楽しめる街」「人中心の街」を実現するために必要な『居場所の在り方』と『環境の在り方』を検証する。
実施日	2023年11月18日(土)・19日(日) (雨天の場合、11月23日(木祝))
時間	11:00～15:00 (予定)
場所	市道6号線・水無川 (秦野橋～まほろば大橋間)
実施項目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空間創出+イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 当該箇所の車両通行止め ➢ 車両通行止めサイン設置 ➢ 川への階段を知らせる路面サイン ➢ 椅子テーブル・パラソル ➢ 階段テーブルの設置 ➢ 欄干テーブルの設置 ➢ 店先空間や道路空間でのコンテンツ展開 ■ 当該箇所を通行止めすることでの周辺への交通の影響調査 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 周辺交差点での目視調査

水無川沿い社会実験 実施場所

山並み（遠景）の眺望方向



【実施方針②】
アクセスマネジメントに取り組む
 歩車分離・歩車共存など人の移動環境の快適性

当該箇所を通行止めすることでの
 周辺への交通の影響を調査
 《周辺交差点における渋滞発生状況調査》

視点場・新しい居場所づくり①

店先空間や低未利用地を活用した視点場・居場所づくり
 (恒久的ではなくイベントとして実施)

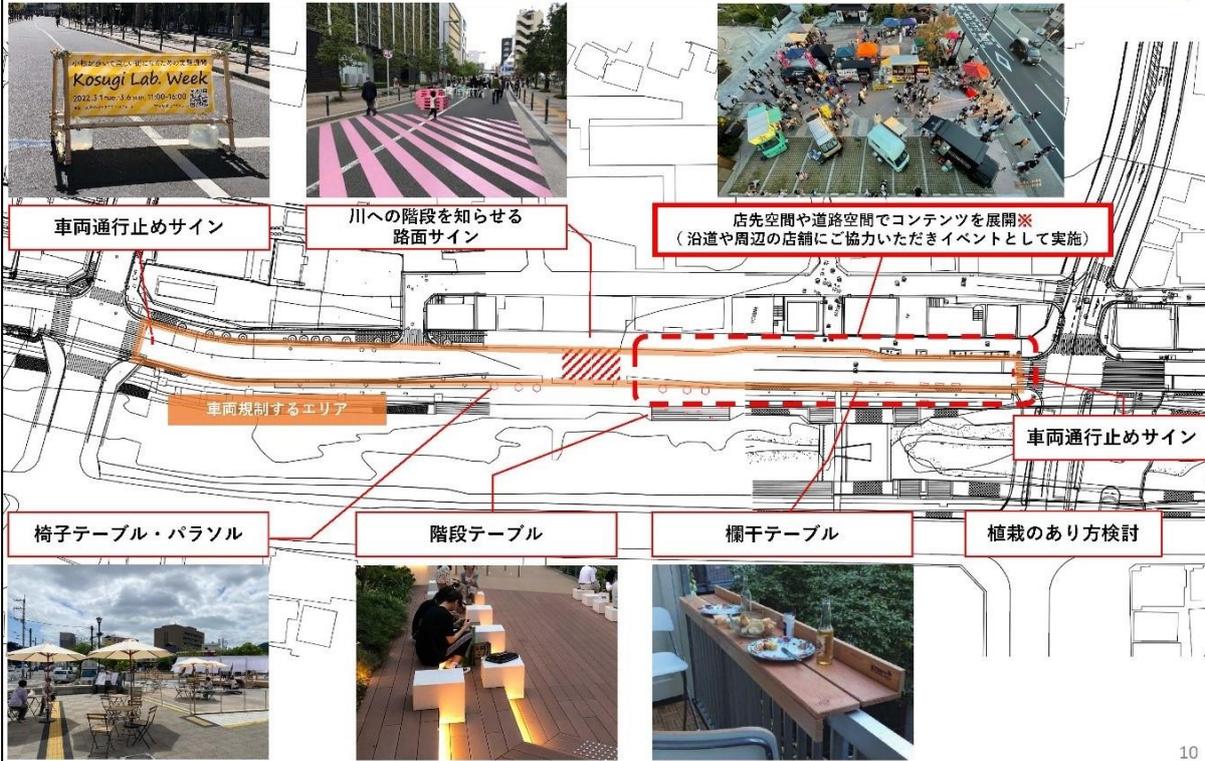
【実施方針①】
 プレイスマネジメントに取り組む
 (居心地・居場所の在り方の検証)
 場の設えとアクティビティの多様性

市民が、心地よい空間を経験し
 魅力を知ってもらう機会の提供
 《空間創出+イベントの実施》

■滞在時間・心地良さなど「空間の質」を評価

→実施にあたっては、自立した事業活動へと発展させるための担い手の育成を視野に入れ、地域の想いを実現させていく検討プロセスが重要

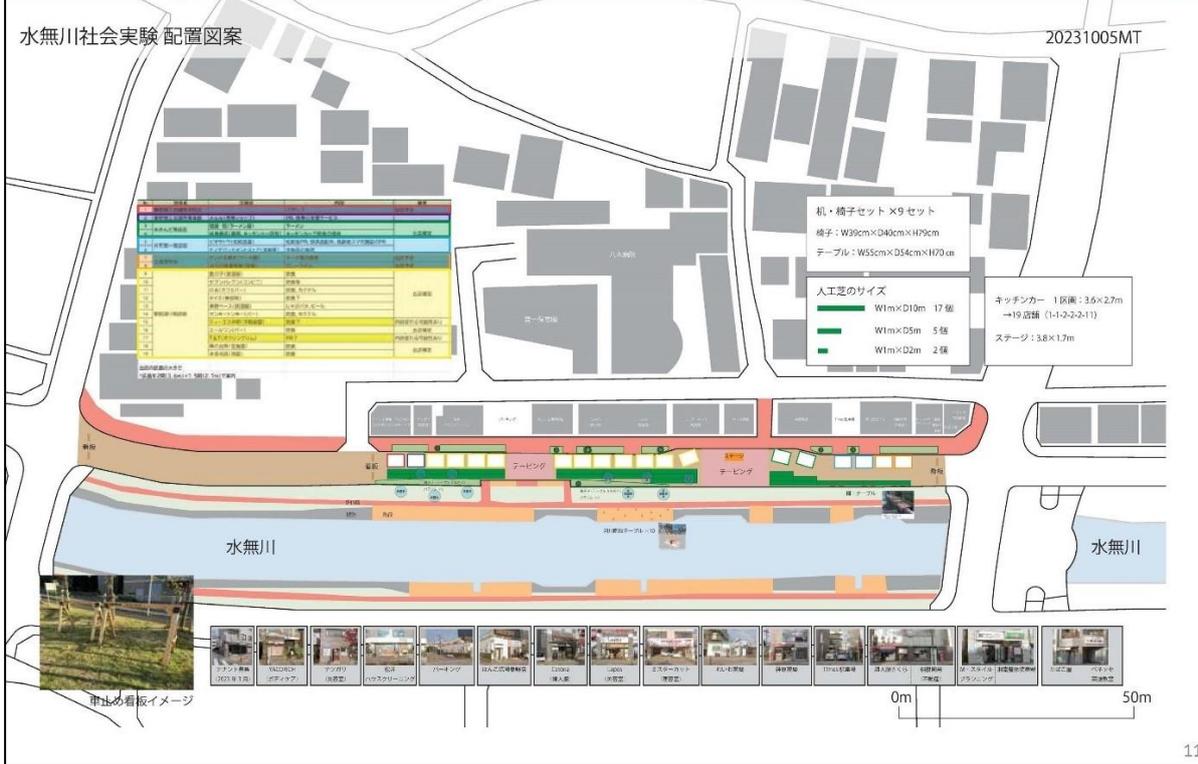
水無川沿い社会実験 プレイスマネジメント実施項目（案）



水無川沿い社会実験 配置図 (案)

水無川社会実験 配置図案

20231005MT



水無川沿い社会実験 アクセスマネジメント実施内容

■ 考察

当該箇所を通行止めすることでの周辺への交通の影響を調査
《周辺交差点における渋滞発生状況調査》

平常時と比べ、

各交差点での渋滞長が**長かった**場合…

→当該箇所を通行止めしたことで、車両に対する移動環境の快適性が損なわれたことが検証される。

各交差点での渋滞長が**短かった**、もしくは**変わらなかった**場合、

→当該箇所を通行止めしても、車両に対する移動環境の快適性に悪影響がないことが検証される。

今後の検討方針

- 他のCASE1~4のアクセスマネジメントについても同様の検証を行っていく。
- 実施曜日、時間帯の工夫

各交差点での渋滞長が**長かった**場合…

➢ できるだけ快適性を損なわない工夫

(例)

- できるだけ、車両の流れを阻害しないCASE1~3の実施。
- 混雑する曜日、時間帯を避けた実施。

各交差点での渋滞長が**短かった**、もしくは**変わらなかった**場合…

➢ より歩行者優先に向けた工夫

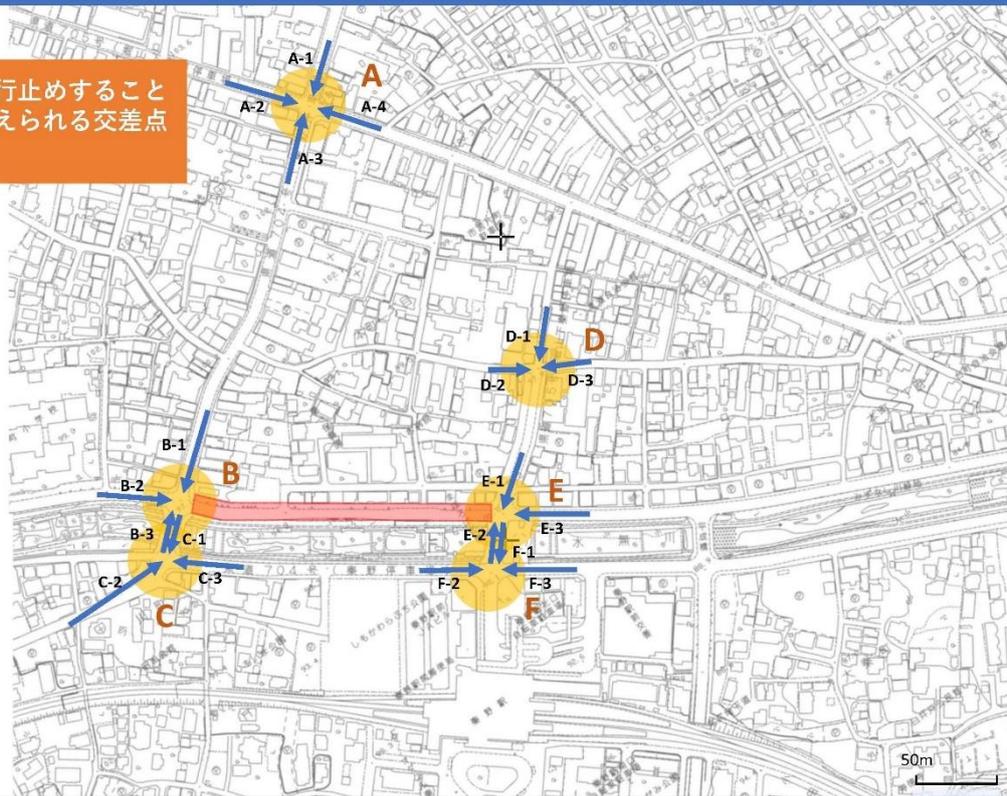
(例)

- 他の曜日、時間帯、より長い時間帯でも実施。

水無川沿い社会実験 アクセスマネジメント実施内容

■ 調査箇所

当該箇所を通行止めすることで、影響が考えられる交差点6ヶ所



水無川沿い社会実験 アクセスマネジメント実施内容

■ 調査方法

調査箇所 a～e交差点 (合計6ヶ所)

実施日 通常時：2023年10月29日(日) (※予備日：実験後の土日で調整。)
 実験中：2023年11月18日(土)・19日(日)
 (雨天の場合、11月23日(木祝))

時間 11:00～16:00 (1時間に1回計測。(6回/1日))

調査項目 ■ 交差点における信号待ちの車両の台数
 ■ 交差点における渋滞の距離

実施方法 ■ 各時間調査員による目視による調査
 ①2人の調査員でA～Fの調査地点を分担。(A～C、D～F)
 ②各時:00分になったら、対象の交差点へ向かい1～3,4の方向の車が何台停車しているかを確認する。(赤信号になった時点でカウントする)
 ③台数をカウントする
 ④車両最後尾の位置をマップにマークする。
 ⑤担当箇所が終わったら、Googleフォームに入力する。
 ⑥②～⑤を繰り返す。(16:00まで)

準備物 □ カウンター (2つ)
 □ 調査票 (MAP) 12枚/日 (計3日分 36枚印刷)
 □ スマートホン (各自記録用)

